

広濟寺寺報

発行 浄土真宗本願寺派 福田山 廣濟寺

〒 933-0344 富山県高岡市笹川98 TEL(FAX) 0766-31-0096

E-Mail info@kosaiji.net

ホームページ

http://kosaiji.net/

法座のご案内

御正忌報恩講

一月十五日(金)

十六日(土)

午後二時より

午前九時半・午後二時より

※ お勤め・法話共に、御堂ではなく、
ストーブで暖かくした広間にて行います



今号の法語



伝統とは

過去のマネゴトではない、

創造とは

新しさのことではない

今号の内容

- ・扁額を寄贈いただきました
- ・仏事のQ&A くお墓についてく
- ・福島へ支援米 く活動報告く
- ・除夜の鐘で年越しを♪



「伝統」とは、先人たちが時代を越えて受け継いできたものを意味します。「受け継いできた」というように、「伝統」は、たった一人で作り出せるというものではなく、そこには必ず人と人との命のつながりがありました。

つながりの中では、それぞれに時代背景も違ってきます。ある時代では革新的な意味を持つていたものも、次の時代ではもはや当たり前なものに……。

ただ単純に過去と同じことをしていても、人も時代背景も違うならば、全く同じということは現実的には不可能です。

ですから「伝統」を受け継ぐため、それぞれの時代の人たちは、それぞれ考えに考え抜いていたことでしょう。

そして、考え抜くという「伝統」の中で、新たな創造が生まれ、それがまた「伝統」となっていく……。

「伝統」の重みの所以ゆえんです。

扁額を寄贈いただきました

遠慶宿縁おんきょうしゆくえんく遠く宿縁よとこを慶よとこべく

この度、広濟寺庫裏くらの広間に、素晴らしい扁額を寄贈いただきました。

寄贈くださったのは、広濟寺のある笹川にお住まいの書道家、畠山耕雪先生です。先日、広濟寺若院の結婚に際し、自ら揮毫くださった書を、広濟寺庫裏の



広間に、扁額として寄贈くださいました。

この広間は、十一月の報恩講ではお齋しき(食事)接待に、来月の御正忌報恩講では勤行・法座に使われています。平時では、ご門徒さんとの応接間として、お寺での法事の際には、ご門徒さん方の控え間として使われています。

今まで何とも寂しかった壁面

に、今回の扁額が掛けられたことで、寺族一同大変喜んでおります。本当に有り難うございました。

さて、扁額に揮毫されている書についてですが、「遠慶宿縁おんきょうしゆくえん(遠く宿縁を慶よとこべ)」と読みます。

出典は、親鸞聖人が著された『顕浄土真実教行証文類たまたまきょうしん(教行信証)』の総序です。

「遇あ、行信を獲えば、遠く宿縁を慶よとこべ」。ここには、遇あい難い阿彌陀様のみ教えに出遇あわれた、親鸞聖人の慶よとこびが著されています。

み教えを慶よとこぶ身にさせていただくまでには、人それぞれ、様々な縁があることでしよう。浄土真宗の家庭に生まれたことで、気づけば仏さまに手を合わせるようになった方。また、死別などの悲しみによつて、仏さまの前に座るようになった方など。そうした順縁も逆縁

も、後から振り返ってみれば、全てがみ教えへのご縁でした。

自分中心の見方しかせず、仏さまのみ教えも素直に受け取れないこの私が、こうしてたまたま、阿彌陀様のお慈悲に出遇あわせたのだいたは、遠い昔から、この私に注がれた阿彌陀様の尊たいお育て(宿縁)があればこそでした。

それは決して自分自身の力ではなかったのです。

「遠慶宿縁」の扁額のもとで、み教えに出遇あわせたこと、私に注がれたことを共に慶よとこばせていただきます。

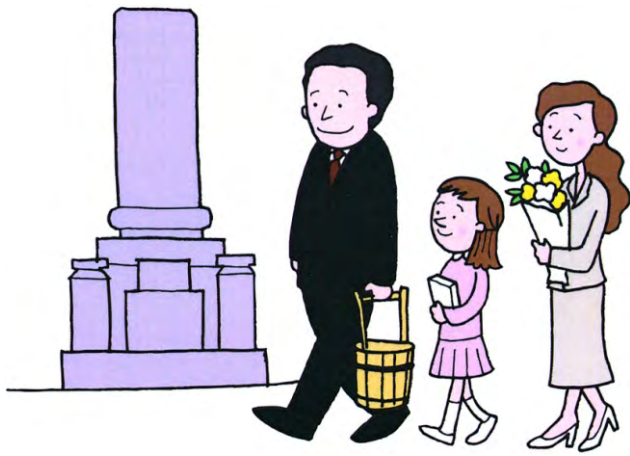


仏事の疑問 Q & A

質問 お墓を建てたいと思うのですが…

近年、お墓も色んな形がでてきているようです。墓石を用いた従来のお墓、屋内でお参りする納骨堂タイプ、最近では樹木を墓碑とした樹木葬などもでてきました。

それぞれの特徴があると思いますが、逆にこの埋葬方法



ではダメ!といったものがあるわけでもありません。

まずは、お墓が何の為にあるものなのか、もう一度確かめてみたいと思います。

お墓は、仏さまとして今まにはたらいておられる故人を偲びつつ、仏さまのお慈悲の心に出遇わせていただく、ご縁の場所です。

ですから、墓相(形・方角など)は関係ありません。大事なのは、仏さまの心に出遇わせていただくことなのです。仏さまに出遇うところなのだから、浄土真宗のお墓の正面には、「南無阿弥陀仏」と書いてあるのです。

また仏さまは一日一日が有

り難いと悟られた方ですので、もちろん日に吉凶なども考えません。

仏さまに出遇うところがお墓であるならば、皆で何度もお参りできたら、仏さまに成つていかれた故人にとっても、これ以上に有り難いことはないのではないのでしょうか。

福島へ支援米

活動報告

前号でお願いさせていただきました、福島県相馬地域への支援米プロジェクトの活動報告をさせていただきます。

五年目を迎えた今回も、たくさんの方々から支援米が寄せられました。全部で五・三トンにもなり、それらは五キロごとに袋詰めされ、東北教区相

故人を偲ぶなかで、自らの姿を省みつつ、これからの生き方をまた新たに確かめていく。自らを問うということは、仏教の出発点でもありました。

先人たちは、故人を偲ぶなかで、今をどう生きていくのかという、仏さまのみ教えに向き合っていたのです。

馬組寺院を通じて避難生活中の方々、また飯舘村から避難しておられる松川第二仮設住宅の方々に届けられました。

皆さんのご協力によって今年もこの活動を継続することができました。本当に有り難うございました。

お知らせ

二〇一五年

除夜の鐘

十二月三十一日(木)

午後十一時四十五分より

二〇一六年

元旦会

一月一日(金)

午前五時より

御正忌報恩講

一月十五日(金)

午後二時より

十六日(土)

午前九時半より

午後二時より

御講師

砺波組 明覚寺

林 要昭 師

除夜の鐘

12月31日(木)

午後11時45分～0時45分頃

※撞いている間も出入り自由です。
いつでもお越しく下さい。
本堂におられる阿弥陀様にもお参りしましょう。



広濟寺仏教婦人会

毎月第四土曜日

午後七時半より

※一月・二月は休会します

※月参りについて

一月一日・二日・三日の三

日間はお休みさせていただきます(祥月命日は除く)。



編集後記

毎年年末はバタバタするもの。今年も予定通り(?)、締め切りに追われての寺報発行となりました。

もう九〇歳を迎えた前坊守も年齢を忘れて正月準備に大忙し。掃除はもちろん、おせち料理の準備でも未だ即戦力です。

そんな前坊守ですが、栗きんとんをミキサーで作りながら、「昔は手で漉しとって大変やったがや」と言いました。

現在はミキサーであつという間にできる栗きんとんも、昔は一日がかりでも、ちよつとしか作れなかつたそうです。

今は気兼ねなく食べれる栗きんとんも、昔はとても手の込んだものだったと教えられました。同じものでも、時代が変わればその価値は次第に見えにくくなつてきます。

新年の栗きんとんの味わいは、一味違うものとなりそうです。